



甘さ心配ナシ 「幸水」収穫始まる

大垣市

県内有数のナシの産地の大垣市で7日、ハウス栽培の「幸水」の収穫が始まった。今年の出来栄は、大きさは例年並みだが糖度は高めで甘く仕上がったという。

同市のナシ栽培は江戸期に由来。曾根町や

南若森町での栽培が盛んだが、ハウス栽培は曾根町の長谷川敏明さん(65)のナシ園のみ。敏明さんのほか、妻の恵美子さん(58)ら家族5人で栽培している。約15アールに約90本の木が植えられ、春すぎまでボイラーで加温。ナシの糖度が上がる効果があり、露地栽培よりも1カ月ほど早く収穫できるという。

収穫は7月下旬まで続くといい、若木の入替え時期に当たるため、例年の半分の約2トの収穫を見込む。直売のほか、JA全農岐阜を通じて県内全域で販売される。

(瀬戸覚旨)

たわなに実ったナシを収穫する長谷川敏明さん、恵美子さん夫妻＝大垣市曾根町